

B R C A 遺伝子変異、リスク増

がん社会 を診る

中川 恵一

歳までに乳がんを発症する確率はそれぞれ72%、69%とされます。若い頃から乳がんがでやすい、両方の乳房にできやすいといった他、男性乳がんが多いのも特徴です。

卵巣がんも、B R C A 1／2の変異があると80歳までに、それぞれ44%、17%の確率で発症するとされます。

さらに、B R C A 1／2の変異があると、乳がんや卵巣がんほどではありませんが、前立腺がんや膵臓がんにリス

クが増えることも分かっています。

しかし、これまで、日本人を対象としたH B O Cの大規模な疫学調査はありませんでした。

理化学研究所を中心とする研究チームは、先月、日本人におけるB R C A 1／2の変異と発がんリスクについての調査結果を公表しました。日

本人約10万人分の遺伝子を解析し、疾患情報と照合して解析したものです。

その結果はまさに衝撃的でした。これまでB R C A 1／2変異で増えるとされてきた、乳がん、卵巣がん、前立腺がん、膵(すい)がんに加えて、日本人に多い胃がんや、

食道がん、胆道がんなども大きく増えることが分かったのです。

B R C A 1遺伝子に変異があると、女性乳がんは16倍、

卵巣がん76倍、膵がん13倍に増えました(前立腺がんはあまり増えないことが分かっています)。さらに、胃がんは5倍、胆道がんも17倍に増えていました。

B R C A 2遺伝子の変異では、女性乳がんは11倍、男性乳がんは68倍、卵巣がんは11倍、膵がんも11倍、前立腺がんは4倍になりました。さらに、胃がんは5倍、食道がんも6倍に増えることが分かりました。

B R C A 1変異があると、85歳までに女性乳がんになる確率は73%、B R C A 2でも58%に達しました。

同じく、膵がんではB R C A 1／2の変異があると、それぞれの確率は16%、14%となりました。胃がんでも、ともに約2割の確率で発症することが分かりました。

ただし、B R C A の変異の割合は、4〜500人に1人程度(欧米データ)ですから、

過剰な心配は無用です。(東京大学特任教授)

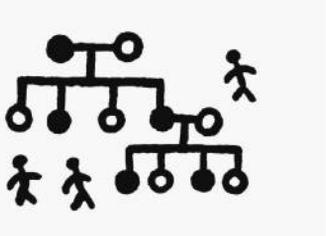


イラスト 中村 久美

がんは遺伝子の病気ですが、遺伝(家系)は発症原因の5%程度にすぎません。その例外的な「家族性腫瘍」の代表が「遺伝性乳がん卵巣がん症候群(H B O C)」です。発症原因はB R C A 1、B R C A 2遺伝子の家系的な変異で、親から子へ50%の確率で受け継がれます。その名のとおり、乳がんも卵巣がんのリスクが非常に高くなりま

す。欧米のデータでは、B R C A 1／2の変異を持つ人が80